

第 5 章 魅力・元気・文化を誇れるまち

まちづくりの
目標

農業、商業、工業、観光業などの各産業の活性化を図るとともに、これらが自然環境や文化、芸術などと複合的につながり、魅力あふれるまちづくりをめざします。

第 1 節		産業基盤			企業の立地や新ビジネスの創出が盛んに行われている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					336人	14.6%	332人	14.4%
関係 所属	産業振興課、産業振興課、商業観光課、農業振興課							
指標名	総生産額 令和10年度までに9,559億円以上をめざす。							
単位	R3年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
億円	8,835	9,921 (R5実績値)				9,559	計画以上	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-1-1 新たな産業用地等の創出	件	6	4	6	計画どおりでない
企業立地支援奨励金交付件数 毎年度、現状値の維持をめざす。					
5-1-2 企業誘致の推進	件	4	1	10	計画どおりでない
都市型産業等育成補助金交付件数 令和10年度までに10件をめざす。					
5-1-3 起業・創業の促進	人	284	326	332	計画通り
創業支援事業の支援対象者数 令和10年度までに、332人をめざす。					
5-1-4 新たなビジネスやイノベーションの創出	件	5	1	7	計画どおりでない
農商工連携による新たな商品やサービス等の創出件数 令和10年度までに7件をめざす。					

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○企業誘致活動については、埼玉県主催の企業立地セミナー（大阪）において三ヶ島工業団地周辺地区に創設される産業団地の情報提供を行った。また、市内金融機関12行(13支店)への訪問を実施し企業誘致の支援メニューの紹介や情報交換を行ったほか、週刊エコノミスト及び毎日新聞中部本社版への広告掲載を行い広くPRを行った。企業立地支援奨励金及び都市型産業等育成補助金については、市内及び近隣金融機関12行(13支店)への訪問を実施して制度の周知活動を行ったが、製造業の立地できる用地等が少ないことから、目標を達成できなかった。

○創業支援事業については、所沢商工会議所、埼玉県信用保証協会と包括連携協定を締結し、特定創業支援等事業の支援者について、信用保証協会の保証料に優遇措置を設けるなど、創業しやすい環境を構築した。支援対象者数については、商工会議所及び創業支援センターで開催する開業ゼミナールや相談会の参加者数が増加した。

○農商工連携推進事業では、「農商工連携のためのきっかけづくり交流会」を開催し、農業者7者、商工業者23者が参加し、他事業者との連携創出となる機会の創出を行った。また、Instagramを活用した新たな顧客獲得の具体的な方法を学ぶ勉強会「Instagram活用セミナー」を開催し、14事業者の参加があった。新たなビジネスやイノベーションの創出については、7事業者が初参加し、連携希望でマッチングした件数も118件と多く出たものの、商品開発に至ったものは1件にとどまり、目標値の達成には至らなかった。

今後の方向性・課題

○市内への企業立地を促進するため、引き続き埼玉県をはじめとした関係機関と連携し周知活動に努めていく。

○企業誘致の推進については、誘致対象の業種の事業所に対して有効なPR活動を展開していく。

○創業支援事業については、多様な支援メニューにより創業者を多角的に支援するものであるが、創業に関する施策のニーズを的確に捉え、事業の充実を図るとともに、創業機運が高まるよう周知・PRを徹底していく。また、所沢市、所沢商工会議所、埼玉県信用保証協会の3者で包括連携を令和7年4月に締結し、特定創業支援等事業の支援者については、創業融資が利用しやすくなったことから、新規創業融資の件数が増加しており、今後もより密に連携していくことで、創業者の支援を進めていく。

○新たなビジネスやイノベーションの創出については、市内に限らず、近隣市町村の農商工事業者とも一層の連携を進めることで、更なる展開を目指していく。

評価日	R8.7.28	記入者職氏名	産業経済部次長 加賀谷 春恵
-----	---------	--------	----------------

第 2 節		産業競争力・成長力			商業・工業・農業などの地元産業が活発である			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と 回答した人数	満足度	力を入れてほしいと 回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					388人	16.8%	329人	14.3%
関係 所属	産業振興課、農業振興課							
指標名	製造品出荷額等 令和10年度までに2,041億円以上をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
億円	1,741	1,859 (R4実績)				2,041	計画以上	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-2-1 地域を牽引する事業者等への支援 地域資源活用・ものづくり総合支援補助金の交付件数 毎年度、5件以上をめざす。	件	9	7	5	計画以上
5-2-2 商工業者等の経営基盤の強化 地域産業を牽引する事業者等支援事業における新規先訪問件数 毎年度、5件以上をめざす。	件	5	5	5	計画通り
5-2-3 農業の生産基盤・経営基盤の強化 機械・施設導入によって経営が改善した経営体数 毎年度、現状値以上をめざす。	件	21	22	現状値以上	計画通り

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業については、新商品やサービスの開発、販路拡大にかかる経費の一部を補助金として交付することで地域経済の活性化に寄与した。事業者は新たな設備の導入等により製品の生産性や品質を高めることができた。

○認定農業者、認定新規就農者といった地域の中心経営体の確保、農地の集積による地域農業の体質強化を目的として、法定計画である地域計画の運用を行った。

○農業振興地域整備計画の適切な運用により、農業生産の基盤となる優良農地の確保に努めた。

○農業を牽引していく認定農業者に対して、気候変動が栽培に与える影響をテーマとした講演会を開催するとともに、「認定農業者等経営改善推進事業」などにより農業経営改善の支援を行った。

○国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえた環境再生型農業を推進する、オーガニックビレッジに向けた取組を進めた。

○地域産業を牽引する事業者等支援事業については、対面訪問を実施し経営上の課題をヒアリングした。また、本市支援施策だけでなく、国や県の支援施策も紹介することで総合的な課題解決の一助となるよう細やかな支援に努めたが、新規先訪問件数については、訪問先との日程調整により4件となり、目標値の達成に至らなかった。

今後の方向性・課題

○地域資源活用・ものづくり総合支援補助金は、小規模事業者の生産性向上や地域産業の活性化を図る上で効果的であることに加え、新製品が開発されることで、新たなふるさと応援寄附の返礼品が生まれる可能性があることから、より一層の補助事業の周知や充実に向け取り組んでいく。

○農業を牽引していく認定農業者に対しては、農業経営改善に向けた支援を行い、新たな担い手である認定新規就農者に対しては、経営初期の安定化のための支援を行っていく。

○「地域の話し合い」の場を年1回開催し、将来の農業の在り方と担い手に関する「地域計画」のブラッシュアップを図る。

○有機農業をはじめとする環境再生型農業について、生産から消費まで一貫した地域ぐるみの取組を進める。

○地域産業を牽引する事業者等支援事業は、地域の核となる事業者に対する支援機会を提供するものであり、事業者へのヒアリングをもとに事業の充実を図っていく。

評価日

R8.7.28

記入者職氏名

産業経済部次長 加賀谷 春恵

第 3 節		観光・にぎわい			所沢市らしい誇れる観光スポットや賑わいのエリアがある			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					786人	34.1%	498人	21.6%
関係所属	商業観光課、産業振興課、農業振興課							
指標名	観光入込客数 毎年度、30万人の増加をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
万人	745	814				925	計画通り	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化 所沢市観光情報・物産館への来場者数 毎年、5%の増加をめざす。	万人	17	23	22	計画以上
5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成 シェアサイクルの利用回数 令和10年度までに6万人の増加をめざす。	回	70,747	148,578	130,747	計画以上
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進 所沢ブランド特産品のPR回数 毎年度、70回以上をめざす。	回	80	73	70	計画どおり
5-3-4 農のあるまちづくりの推進 所沢産農産物の直売所への出荷割合 毎年度、60%程度の維持をめざす。	%	68.0	69.0	60.0	計画どおり
5-3-5 観光客誘致・受入体制の強化 ところんSNS (X, Instagram, Facebook) ” フォロワー ” 数 毎年度、1,000人の増加をめざす。	人	18,740	21,672	23,740	計画どおり

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- 所沢市観光情報・物産館の来場者数はR5年度から30%以上、前年度から4.5%増加しており、既にR10年度目標値を超えている。
- シェアサイクルの利用回数はR5年度から110%以上、前年度から27%以上増加しており、既にR10年度目標値を超えている。
- 所沢ブランド特産品推進事業について、Instagramの活用及び市民フェスティバルをはじめとした各種イベントへの参加を実施。併せて、ふるさと納税返礼品への提供を所沢ブランド特産品認定事業者に対して打診し、各ふるさと納税サイトで返礼品提供を行い、販路拡大に寄与した。
- 生産者の農業経営の改善を支援しながら、市内外のイベント等へ参加することにより、所沢産農産物の消費拡大を推進するとともに、ブランド化の推進を図った。
- 世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法の落ち葉掃き体験イベントを開催し、農法の継続推進とともに周知及び来訪を図った。
- 昨年度作成した市内にある46の茶園・茶屋の特徴と所在地を狭山茶の知識と共に紹介した小冊子を各種イベント等にて配布することで、産地への来訪を促した。
- 2025大阪・関西万博「LOCAL JAPAN展（Tea Journey～日本茶の文化と風味を楽しむ～）」に出展し、1万人を超える来場者に狭山茶の魅力を発信した。
- 上田城紅葉まつりや茅ヶ崎フェスティバル、KADOKAWAでの喫茶来Tokorozawa Tea Fesに出展、角川食堂への食材提供により、所沢産狭山茶や里芋の普及啓発を行った。
- ところんのSNSについて、観光大使や他自治体ゆるキャラとコラボするなど、積極的な情報発信を行った。

今後の方向性・課題

- 参画している広域団体との更なる連携により、5-3-2「にぎわい拠点のネットワーク形成」をより進めていく。
- 様々な広報ツールを活用し、様々なステークホルダーを巻き込んだ普及啓発活動を行っていく。
- 所沢ブランド特産品推進事業において、販路支援策として駅周辺の商業施設の協力を図るとともに、WEBサイト及びパンフレットによる効果的な支援を進めていく。
- 市内外のイベントへの食材提供など、生産者から事業者への橋渡しを行うことで、里芋や狭山茶など所沢産農産物の魅力を発信することで、産地への来訪を促す。
- 世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法の継続推進をはじめ、地域ならではの特色ある農産物や文化を生かしたブランド化を図っていく。
- R8年度については、航空発祥祭の開催や台湾旅行博への出展など、観光入込客数の増加に直接的に影響がある事業を展開していく。

評価日	R8.7.28	記入者職氏名	産業経済部次長 加賀谷 春恵
-----	---------	--------	----------------

第 4 節		産業人材・雇用		農業の担い手育成や就労支援は充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と 回答した人数	満足度	力を入れてほしいと 回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				170人	7.4%	290人	12.6%
関係 所属	産業振興課						
指標名	市内事業所従業者数 令和10年度までに117,528人以上をめざす。 ※経済センサス（事業所・企業の全数調査を5年度毎に実施）掲載数						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
人	116,328	調査未実施				117,528	計画どおり

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-4-1 将来の産業を担う人材の確保と育成	者	18	18	50	計画どおりでない
市ホームページ等で紹介した事業者数（累計） 令和10年度までに累計50者以上をめざす。					
5-4-2 雇用の確保や労働環境の改善	人	115	140	80	計画以上
就職応援フェア参加者数（若年者） 毎年度、80人以上をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○事業者からの人材確保支援要望の高まりを受け、市内製造事業者の魅力をPRするコンテンツ、通称「とこジョブ」の公開や冊子の作成等を実施した。また、狭山市・入間市・三芳町・ハローワーク所沢・埼玉県と合同で「地域合同就職相談会(参加事業者20者)」を開催し、中小企業の人材確保に取り組んだ。

○「埼玉しごとサポート事業」や「就労チャレンジ支援事業（若年者就職応援フェア）」など、若者・女性・シニア等の就労支援事業に取り組んだ。

○人材確保策として行っている市内事業者の紹介については、掲載事業者の募集を市HPや広報で周知している他、ダイレクトメールの発送や、企業訪問時に制度の活用を案内するなどの活動を行ったが、掲載を希望する事業者から「掲載要件が厳しい」との意見もあり、申請数が少なかった。

今後の方向性・課題

○国・県と連携しながら、多種多様な世代のニーズに応じた就労支援を実施していく。

○就職応援フェアについては、令和6年度は目標値を未達成となり、令和7年度は達成できた。引き続き、ハローワーク所沢と連携し、参加者ニーズを把握しながら開催していく。

○人材確保策として行っている市内事業者の紹介については、希望する事業者が利用しやすいよう、掲載要件の見直し等を検討する。

評価日	R8.7.28	記入者職氏名	産業経済部次長 加賀谷 春恵
-----	---------	--------	----------------

第 5 節		国際化・多文化共生			外国人市民にも暮らしやすい			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と 回答した人数	満足度	力を入れてほしいと 回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					325人	14.1%	132人	5.7%
関係 所属	企画総務課							
指標名	国際化・多文化共生に関する施策の満足度 令和10年度までに15.0%以上をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
%	12.0	14.1				15.0	計画どおり	

事業目標の達成状況		単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-5-1 国際交流活動の推進 姉妹都市交流事業に参加した市民の人数 令和10年度までに150人をめざす。		人	141	55	150	計画どおりでない
5-5-2 外国人市民が暮らしやすい環境づくり 多言語化した行政資料の数（「やさしい日本語」含む） 令和10年度までに100件をめざす。		件	78	70	100	計画どおりでない
5-5-3 多文化共生の意識を育む環境づくり 国際交流フォーラムにおける外国人の参加割合 毎年度、現状値以上をめざす。		%	8.9	9.8	現状値以上	計画どおり

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- 多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、外国人市民と日本人市民の交流・情報交換の場となる国際交流フォーラムを開催した。
- イタリア都市文化交流推進事業の一環として、ティエーネ市代表訪問団を受け入れた。また、職員向けにワイン販売を行った。
- 職員向けに多文化共生に関する研修会を開催した。
- 海外都市学生交流事業として、ディケイター市へ所沢市内の高校生6名を派遣した。
- 「姉妹都市交流事業に参加した市民の人数」については、当年度の訪問団の派遣数・来訪数に左右される面がある。
- 「多言語化した行政資料の数」については、取組み開始から年数が経過し新たに多言語化する資料が少なくなっている。

今後の方向性・課題

- 国際交流活動では、姉妹都市との交流をはじめとして、令和4年度に覚書を取り交わしたイタリア共和国ティエーネ市との交流も推進していく。
- 外国人市民が暮らしやすい環境づくりの一環として、行政資料の多言語化（「やさしい日本語」を含む）や市ホームページ等での情報発信の充実を図る。
- 多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、国際交流フォーラムの開催や、市民向けまたは庁内職員向けの多文化共生に係る研修会を引き続き実施する。
- 姉妹都市交流については、国際情勢や航空運賃等の状況を注視しつつ訪問団の派遣や受入に努めるとともに、オンラインによる交流など、市民参加の拡充について検討していく。
- 行政資料の多言語化については、実績値としては漸減傾向にあるが、引き続き各所属に対して働きかけていく。

評価日	R8.7.28	記入者職氏名	経営企画部次長 並木 茂幸
-----	---------	--------	---------------

第 6 節		文化芸術・伝統文化			日常生活の中での芸術・文化に触れる機会に満足している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					477人	20.7%	278人	12.1%
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課、文化芸術振興課、文化財保護課							
指標名	文化芸術・伝統文化に関する施策の満足度 令和10年度までに現状値以上をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
%	16.3	20.7				現状値以上	計画以上	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
5-6-1 個性あふれる文化の創造 SNS (X, Instagram, Facebook) ” フォロワー” 数 令和10年度までに2,500人の増加をめざす。	人	1,800	4,145	4,300	計画以上
5-6-2 文化財の調査・保存・活用 歴史文化や郷土を大切にしたいと思う人の割合 令和10年度までに80.0%以上をめざす。	%	64.0	69.0	80.0	計画どおり
5-6-3 ふるさと研究の推進 ふるさと所沢について学びたいと思う人の割合 令和10年度までに80.0%以上をめざす。	%	60.0	73.0	80.0	計画どおり

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○「音楽のあるまちづくり」事業では、まちなかコンサート、音まちファミリーコンサート、音まち青春ROCK、の開催に加えて、新たに武蔵野MUSIC JAMの開催支援を行った。 ○「三ヶ島アートなベンチ」として、和ヶ原商店街に新たなベンチを設置した。また、三ヶ島アーティスト・イン・レジデンス事業として、アーティストに地域へ滞在する機会を提供し、アート作品の制作や発表、ワークショップ等を行い、地域の交流の機会を創出・活性化を図った。 ○「第52回将棋の日in所沢」開催支援事業として、「第51回将棋の日in棋士のまち加古川」を視察するとともに、日本将棋連盟や市内関係団体と、実行委員会設立に向けた協議を進めた。 ○所沢市民文化センターについて、指定管理者制度による管理運営を行った（指定管理者：公益財団法人所沢市文化振興事業団）。当該センターは開館から30年余りが経過しているが、令和7年度については、ミュージズメンバーズ会員及び自主事業チケット収入が過去最高を更新するなど、本市における文化の殿堂として、今もなお高いニーズがあることが窺えた。 ○所沢駅東口市民ギャラリーについて、指定管理者制度による管理運営を行った（指定管理者：公益財団法人所沢市公共施設管理公社）。 ○市域に所在する文化財の保存と活用に関する総合的な計画として「所沢市文化財保存活用地域計画」の作成を進めた。 ○寿町に所在する国登録有形文化財「秋田家住宅」及び敷地全体の整備及び活用を図るために、業務委託による「秋田家住宅」の基本設計を実施した。 ○「所沢市伝統芸能発表会」の開催により、民俗芸能保存団体の活動支援を行うとともに市民が無形民俗文化財に親しむ機会とした。また、広報紙発行を通じて文化財調査成果の情報発信を進めた。 ○企画展示「所沢の昭和100年～駆けぬけた激動の時代～」を開催するとともに、写真集『写真でふりかえる所沢の昭和100年』を発行し、郷土資料等の公開及びふるさと研究の成果を市民に伝え学ぶ機会とした。 ○資料研究の成果を踏まえて、国登録有形文化財「旭橋」の失われた電灯を復元した。 ○「ところざわ星空フェスティバル」を市内企業など協力のもと開催することにより、子どもたちが夏休みに「ふるさと所沢」を学び親しむ機会とした。 ○「ところざわ埋文まつり」を開催することにより、小・中学生から大人まで市民が地中に眠る遺跡を学び、考古学に親しむ機会とした。

今後の方向性・課題
○「音楽のあるまちづくり」関連事業やアートに関する事業を推進し、文化の薫り高い施策を進めていく。 ○所沢市民文化センターについては、市の文化の発信拠点として、魅力あるコンテンツを提供していけるよう指定管理者と協力していくとともに、地域密着型の文化振興についても推進していく。また、施設の大規模改修時に未着手だった部分の改修へ向けて進めていく。 ○所沢の歴史文化を後世に継承していくため、令和8年7月の文化庁認定を目途に「文化財保存活用地域計画」を作成し、長期的な視点で本市の歴史文化の後世への継承に取り組んでいく。 ○国登録有形文化財「秋田家住宅」の整備を進め、明治・大正期に織物産業で栄えたまちの歴史を伝えるとともに、中心市街地の回遊拠点のひとつとして、まちづくりやにぎわいの創出にも寄与するよう活用を図っていく。 ○「ふるさと所沢」に関する資料を収集・整理・調査し、その成果を展示・講座・体験学習会等を通じて市民に伝えるとともに、市が所蔵する資料を良好な環境で保存するため郷土資料等収蔵施設の検討を進める。 ○埋蔵文化財包蔵地（遺跡）で埋蔵文化財の有無を確認する確認調査と記録保存のための発掘調査を行うとともに、埼玉県指定史跡「滝の城跡」の史跡整備を進める。

評価日	R8.7.28	記入者職氏名	市民部次長 山屋 貴裕 教育総務部文化財保護担当参事 古田 晃一
-----	---------	--------	-------------------------------------